



御修復のあゆみ

阿弥陀堂 外部鍍金物の取り付け

今秋からいよいよ阿弥陀堂素屋根解体に向けた準備が始まり、二〇一五年初頭から本格的に解体工事が始まります。そのため、屋根改修をはじめとした阿弥陀堂外部にかかる工事は今秋までにすべて完了するように、最後の仕上げに向けた調整が続けられています。



工房での鍍金物の修復

阿弥陀堂の破風、軒先や垂木の先端につけられていた鍍金物についても工房での修復が完了して、元の箇所に取り付ける作業が始まりました。

落とし、成形し直したうえで漆金箔や墨差しといった加工や、下地の銅板を硫化カリウムで黒く色づける煮黒味といった加工が施されました。これにより黒色と金色のコントラストが美しい状態に修復され、再び明治期再建時の輝きに戻りました。

そして、修復された鍍金物の取り付けにおいても細心の注意



阿弥陀堂破風への鍍金物の取り付け

を払いながら作業が進められています。破風金物などの大きな金物はもちろん、千二百本以上ある軒先の垂木鼻の鍍金物にいたるまでそれぞれ位置が決めら

れているため、修復前に3Dスキャナで計測・作成した図面と照らし合わせながら、確実に一点一点を元の場所に戻すように取り付け作業を行っています。



垂木鼻鍍金物の取り付け



阿弥陀堂のきれいに湾曲している軒先(修復前)

ところで、阿弥陀堂は特に屋根が宙へと伸び上がっていくように、四隅に向かって美しく湾曲していく軒先のラインが印象的です。この屋根の造りの工夫によって、建物は実際よりも大きくまた優美に見えるのです。この屋根のラインに沿って垂木も並んでいるのですが、湾曲していない辺りでは垂木の木口(断面)は長方形になっているのに対し、中心から四隅に向



菱形の木口に取り付けられた垂木鼻鍍金物

かう辺りでは長方形から菱形に変化するなど、垂木の形が場所によって断面・長さともにすべて違うものになっています。さらには、鍍金物も垂木にあわせて少しずつ形状を変化させているのです。

また、この垂木鼻鍍金物の下面に施されている唐草模様についても、向拝の中心から南北で変化していることが修復の中で確認されました。そのことから建物を左右対称にして、鍍金物の細かな模様までにも心を配り製作されていた



懸魚の鍍金物



左右対称に彫られた金物

ことがわかります。また、破風にある懸魚下面の鍍金物にも、地面から肉眼ではおよそ確認できない箇所であるにもかかわらず、美しい青海波の模様がたたき出されていました。

◆◆◆◆◆
垂木鼻鍍金物の指定寄付受付中
◆◆◆◆◆
垂木鼻鍍金物の修復に対し、一口5万円にて指定寄付を募集しております。(詳しくは50頁)
なお、2014年6月末までのお申込については、ご志納いただいた方のご芳名を和紙に記名し、阿弥陀堂軒先の鍍金物取付部分に貼り付けいたします。
有縁の皆さまのご協力をお願いいたします。



垂木木口に貼り付けられたご芳名